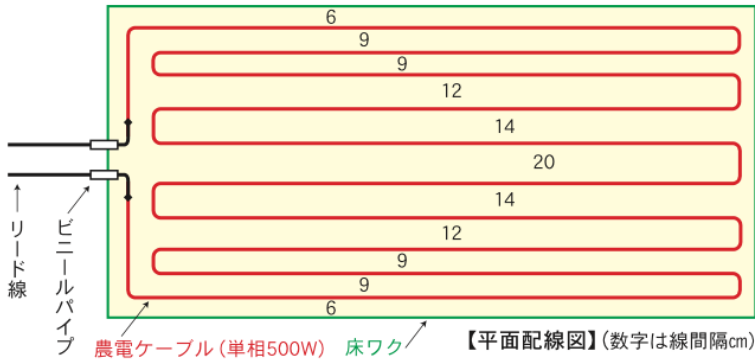


農電温床の例

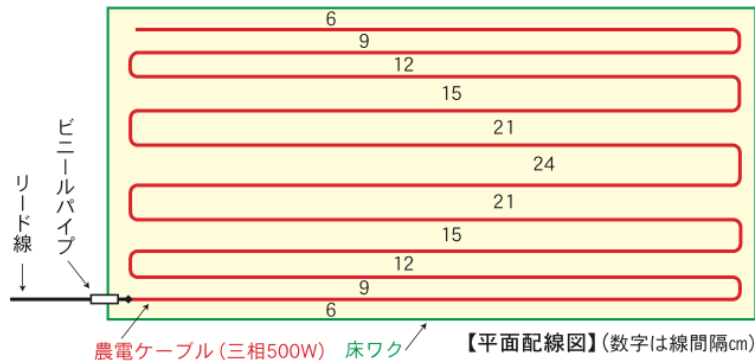
1.単相型用

- (1)床の大きさ：6.6㎡ (1.2m×5.5m) → 2坪
- (2)容 量：500W (3.3㎡当り250W) → 坪当り250W
- (3)農電ケーブル：500W単相型使用の場合 → 10条配線
- (4)床 温：30℃ (ハウス内) が保てます

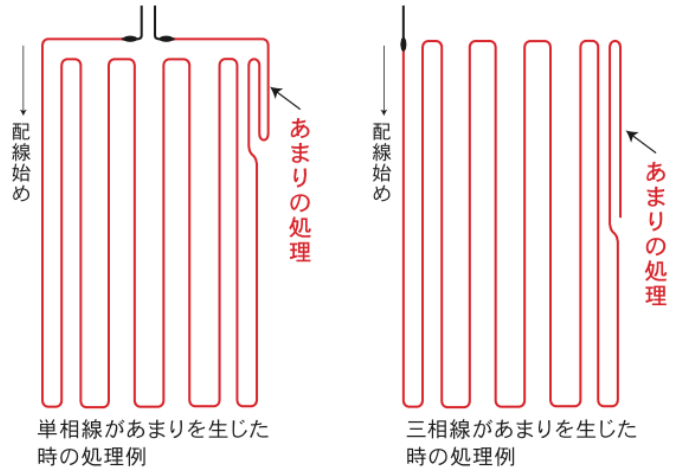


2.三相型用

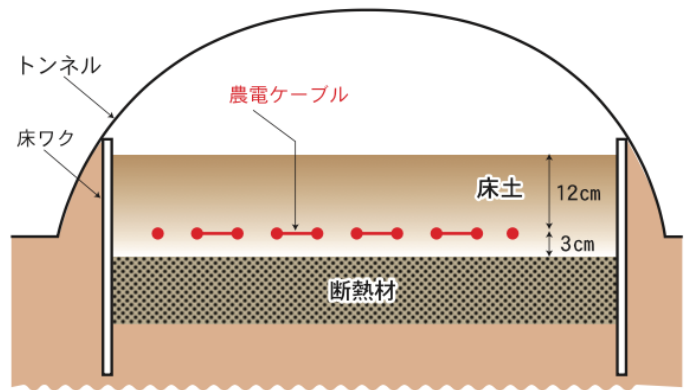
- (1)床の大きさ：8.25㎡ (1.5m×5.5m) → 2.5坪
- (2)容 量：500W (3.3㎡当り200W) → 坪当り200W
- (3)農電ケーブル：500W三相型使用の場合 → 10条配線
- (4)床 温：28℃ (ハウス内) が保てます



あまりの処理



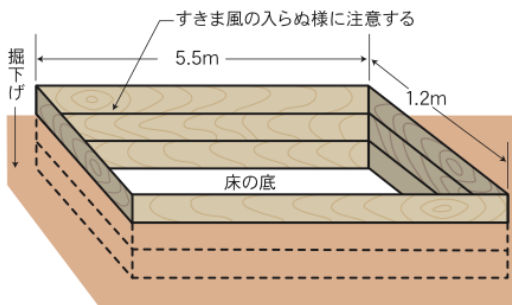
直まきの例



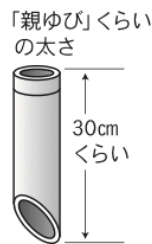
注意：農電ケーブルに直接、ポリ鉢、育苗箱、セルトレイを置くこと事故の原因になります。

農電温床配線手順

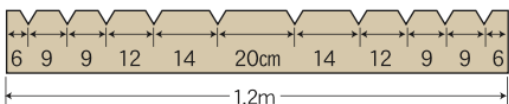
- ①貫板で床ワクをつくる。10~15cmくらい掘り下げ、底を「たいらにならす」(例)巾1.2mの播種床、6.6㎡ (2坪)



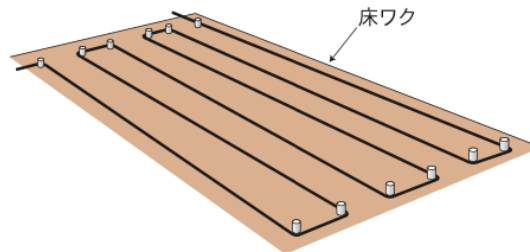
- ②配線条数に応じて「丸クイ」を用意する。この例は10条配線なので、片側10本、両側で20本用意します。
- ③配線間隔の目安となる巾木をつくる。



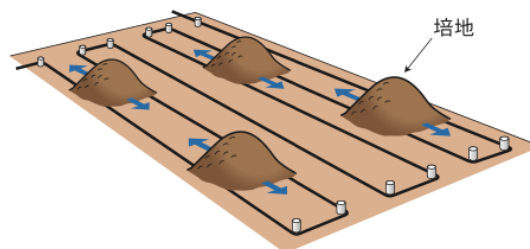
適当な板(巾約6cm)、配線間隔を示す切込み10ヶ所



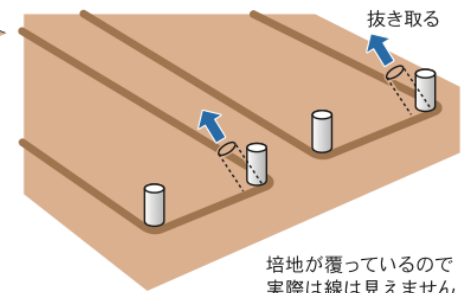
- ④床ワクの中に断熱材を敷く。「モミガラ」の場合は12cm程度。
- ⑤温床の短辺に「配線の目安になる巾木」をあて、巾木の切り込みに合わせ「丸クイ」を立てる。全ての丸クイを立て終えたら巾木は不要。
- ⑥「丸クイ」にかけて配線する。



- ⑦配線が完了したら「ところどころ」に培地をおいて農電ケーブルを押さえる。



- ⑧予定量の培地を入れ終わったら矢印の方向へ「ならす」。農電ケーブルを埋設する培地の量は「直まき」の場合12cm程度、ポリ鉢、育苗箱、セルトレイの場合3cm程度が目安です。
- ⑨十分にかん水する。水分は熱を伝え温度を均一にする働きがあります。
- ⑩「丸クイ」を内側に倒しながら抜き取り配線完了。



注意：食害防止のため断熱材に稲ワラは使わない。保管する場合は直射日光を避け「ネズミ」に食害されないようご注意ください。